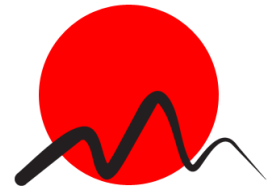


# Slovenia Monthly January 2018

## スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2018年2月4日



### ～1月の主なポイント～

- 政治：**国民議会，民主党(SDS)によるツェラル首相に対する不信任動議を否決。  
**経済：**憲法裁判所，コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設経費調達法案及び国民投票実施に関する法律は憲法違反と判断。今後の最高裁の判断次第では案件の進捗に影響か。  
**外政：**エリヤヴェツ外相，スロベニアによるパレスチナの国家承認に向けた手続加速を約束。スロベニア政府，クロアチアとの国境線画定問題を巡り，欧州司法裁への提訴を準備。  
**軍事：**NATO事務総長，パホル大統領に対し，スロベニアの国防予算増額を要請。  
**社会：**スロベニア・オリンピック委員会，平昌冬期オリンピックに過去最大の選手団を派遣。  
**日・スロベニア関係：** 牧原秀樹・厚生労働副大臣のスロベニア訪問

## 政治

### 【内政】

#### ●首相に対する不信任動議の否決

9日，国民議会は，ツェラル首相に対する不信任動議を否決し，首相の留任が決定した。野党民主党(SDS, 右派)は同首相に対し，シリアからの難民，アフメド・シャミア(Ahmed Shamieh)氏への対応に関し，首相としての職権を乱用して内務省より通達のあった同人のクロアチアへの国外退去を妨害したとして憲法違反の責任を問い，不信任動議を提出していた。本件審議において，連立与党は首相の支持に回り，野党左派連合(ZL, 左派)はシャミア氏の保護を理由に否決を支持したほか，野党新スロベニア(NSi)は投票を棄権したため，否決票を投じたのはSDSのみとなり，最終的に不信任動議は賛成18票，反対52票で否決された。

(なお，シャミア氏は，2016年にシリアからの難民として西バルカンルートを通して最終的にスロベニアに到着し，スロベニアにて難民申請をしたが，スロベニア内務省及び欧州司法裁判所等は，EU域内で最初に入国したクロアチアにて難民審査を受けるべきとして国外退去を命じていた。シャミア氏は，不信任動議発動のきっかけとなったツェラル首相の発言時である2017年11月時点，既に20か月以上スロベニアに滞在し，当地のあらゆる文化・社会活動に積極的

に参加しておりスロベニア社会に統合してきたとして，国会議員ら数名が人道的理由から同人にスロベニア滞在許可を付与すべきと呼びかけていた。)



(写真：Siol.net)

#### ●ノヴァク氏，「新スロベニアイニシアティブ(NSi)」党首を辞任【31日】

リュドミラ・ノヴァク(Ljudmila Novak)氏は，野党「新スロベニアイニシアティブ(NSi, 右派)」の党首を辞任する旨を発表した。同氏は，2008年より約10年間同党党首として務め，2011年には議会における同党議席を取り戻した実績がある。また近年はヤンシャ(Janez Janša)党首率いる野党社会民主党(SDS, 右派)との距離を保ち，民主的な新しい右派政党を目指していると発言していたが，昨年11月に実施された大統領選挙では苦戦した。なお，後任の党首に

は、議会におけるNSi代表を務めてきた34歳のマテイ・トニン(Matej Tonin)氏が任命された。トニン氏は、ノヴァク氏の今までのリーダーシップを称えた上で「NSiのキリスト教民主主義の価値観を保持しつつ、同党の近代化に努めたい」と所信を述べた。

### ●公的機関職員による全面ストライキ【24日】

公務員労働組合16団体に所属する3万人を超える公的機関職員が、賃金引上げを求めてストライキを実施した。同ストライキによって、中央省庁や医療機関等におけるサービスが制限された。また、約4000人が政府機関の建物の前で抗議集会を実施した。コプリウニカル公共行政大臣によると、一部の科学者や教員を除く27の公務員労働組合は総額9.9億ユーロの増額を要求しているが、政府はかかる膨大な増額に応じることは不可能であり、国民の真意を問う必要があると述べた。また、経済界は、同賃金引上げに強く反対し、賃金の引上げの前に金融危機以前のレベルまで諸課税率を下げるべきと主張している。なお、2月8日、12日に警察官、13日に医療・社会福祉サービス従業者、14日に教員らによるストライキが予定されている。

### 【外政】

### ●ツェラル首相、2021年EU議長国に向け、ポルトガルとの協力を確認【17日】

ツェラル首相は、スロベニアを訪問したコスタ・ポルトガル首相と会談し、両国は、2021年のEU議長国に向け、共同で準備を行っていくことで合意した。両首相は、二国間関係についても意見交換を行い、自動車、製薬、環境産業、バイオ産業及びロジスティクス分野でビジネス関係を強化していく余地があるとの認識で一致した。なお、ポルトガルは、2021年の前半に、スロベニアは後半にEU議長国を務める予定となっている。

### ●パホル大統領、平昌オリンピックに合わせ、韓国を公式訪問【29日】

パホル大統領は、平昌オリンピックに合わせ、韓国を公式訪問することを明らかにした。同訪問は、外交関係樹立25周年の一環として行われ、文在寅・大統領、丁世均・国会議長及び康京和・外交部長官との間で経済協力及び最近の国際情勢等につき意見交換を行うと共に、オリンピックに出場するスロベニア人選手を激励する予定である。

### スロベニアに迫る！ ⑤9

### スロベニア、平昌冬期オリンピックに過去最大の選手団を派遣

30日、スロベニア・オリンピック委員会は、過去最多となる71名の選手団を派遣することを決定しました。2月9日のオリンピック開会式にて国旗を持つ代表者は、「ラジオVal20」の視聴者投票により、前回のソチ五輪の銅メダリストであるクロスカントリーのヴェスナ・ファブヤン(Vesna Fabjan)選手に決定しました。

前回のソチ五輪においては、ティナ・マゼ(Tina Maze, 女子アルペンスキー, 金2), ペテル・プレウツ(Peter Prevc, 男子スキージャンプ, 銀1銅1), ジャン・コシル(Zan Kosir, 男子アルペンスノーボード, 銀1銅1), テヤ・グレゴリン(Teja Gregorin, 女子バイアスロン, 銅1), ベスナ・ファブヤン(女子クロスカントリースキー, 銅1)が合計8つのメダルを獲得しました。

平昌五輪には、アルペンスキー、スキージャンプ、バイアスロン、スノーボード、アイスホッケー、ノルディック混合、スキークロス、クロスカントリー、リュージュ、アイスホッケーの9種目に選手団が派遣されます。



(写真:スロベニア・オリンピック委員会)

メダル受賞の有力候補としては、アルペンスキー男子のジャン・クラニェツ(Zan Kranjec), 女子のメタ・フロヴァット(Meta Hrovat), アナ・ブチック(Ana Bucik), 男子アルペンスノーボードのロック・マルグッチ(Rok Marguc), ジャン・コシル(Zan Kosir), 男子スキージャンプ団体、個人ではペテル・プレウツ(Peter Prevc), イェルネイ・ダムヤン(Jernej Damjan), 男子スキークロスのフィリップ・フリサル(Filip Flisar), 女子クロスカントリーのアナマリヤ・ランピッチ(Anamarija Lampic)等が挙げられており、前回のソチ五輪を超える数のメダル獲得が期待されています。



## 日・スロベニア関係

### 牧原秀樹・厚生労働副大臣のスロベニア訪問

1月24日から26日にかけて、スロベニア政府とOECDの共催で開催された「OECD平等な高齢化のための政策に関するハイレベル会合」に出席するため、牧原秀樹・厚生労働副大臣がスロベニアを訪問しました。同副大臣は、25日にブルドーで開催された同会合のパネルセッションにおいて、我が国における高齢化の課題及び対策、並びに、ハローワークの活動等の我が国の雇用対策等につきスピーチを行いました。



(ハイレベル会合において発言する牧原副大臣)

また、牧原副大臣は、スロベニア滞在中に、コウシュツァ国民評議会(上院)議長(Mr. Alojz Kovsca)及びコパチュームラク労働・家族・社会問題・機会均等大臣(Dr. Anja Kopac Mlak)と会談し、二国間関係強化及び両国が共有する高齢化問題への対処等につ議論を行った他、



(コパチュームラク労働・家族・社会問題・機会均等大臣との会談)

エリヤヴェツ外相とも立ち話を行い、二国間関係強化につき意見交換を行いました。牧原副大臣は、スカルペッタOECD雇用労働社会問題局長とも会談し、OECDにおける協力強化等につき意見交換を行いました。



(コウシュツァ上院議長表敬)

更に、牧原副大臣は、生涯教育機関(Cene Stupar Public Education Centre)、労働・家族・社会問題・機会均等省、及び、加速器の制御システムを開発・製造する「Cosylab」社を訪問し、我が国が進めている「働き方改革」の参考とするために、スロベニアにおける労務管理の現状及び改善に向けた取り組みにつき意見交換を行いました。



(エリヤヴェツ外相との立ち話)

(パレスチナ国家承認問題)

●エリヤヴェツ外相、パレスチナ国家承認に向けた手続加速を約束【17日】

エリヤヴェツ外相は、ブラッセルにおいてアッバス・パレスチナ自治政府大統領とEU諸国外相との会談に出席後、メディアに対し、「スロベニアは独立した外交政策を有しており、何故、突然、他国の国家承認を待たなければならないのか自分はその理由が理解出来ない。国家承認は、連立与党間で合意されたものであり、承認を行うことに疑いの余地はない」と述べた。また、同大臣は、長期的にはスロベニアが正しい選択をしたことが証明されるであろうとの考えを示し、国民議会は3月か4月の会合において本件問題を審議するとの見通しを明らかにした。

●パホル大統領、パレスチナ国家承認に慎重な立場を示す【26日】

パホル大統領は、国家承認問題につき、「承認がパレスチナとイスラエルとの関係を悪化させるのではなく、両者の間の問題解決に貢献するのであれば支持するが、現在はそのような状況ではないと考える」と述べ、慎重な立場を示した。一方、同大統領は、中東問題の平和的解決に向け、EU共通外交政策は、より野心的且つ影響力を持つべきだと主張した。

●エリヤヴェツ外相、イスラエル大使に、3～4月にもパレスチナ国家承認を行う見通しと伝達【29日】

エリヤヴェツ外相は、スロベニア訪問中のセラ・イスラエル大使(外務省から管轄)と会談し、「連立与党の方針を踏まえ、スロベニアは、恐らく国家承認を行うこととなり、手続が順調に行けば、3月か4月にも実行する」と述べた。同大使は、ブルグレス国民議会議長及びホルヴァット同外交政策委員長と会談し、国家承認はスロベニアにとり否定的な影響を与える可能性があるとして述べた。同委員長は、「スロベニアに対する圧力行使とは捉えておらず、独自の考えに基づき方針を決定するであろう」との考えを示した。



(写真:スロベニア外務省)

●国会外交政策委員会、国家承認問題に関する審議を一時中断【31日】

国民議会外交政策委員会は、国家承認問題に関する審議を開始したが、ホルヴァット委員長は、法律上、新たな国家承認に向けた動議は政府側からなされる必要があるとして、審議を一時中断した。これに対し、エリヤヴェツ外相は、2月1日又は翌週にも閣議において本件につき審議を行う予定であり、その後、同委員会の審議は再開されるであろうとの見通しを示した。同委員会内での意見は分かれており、民主党(SDS)及び新スロベニアイニシアティブ(NSi)は、反対の意思を示している。

(クロアチアとの国境線画定問題)

●在外公館長会議での大統領、首相及び外相の訓示【4～5日】

ブルドーにおいて在外公館長会議が開催され、パホル大統領は、クロアチアとの仲裁合意は、バランスをとった妥協であったとし、その結果、同国のEU加盟が実現したことも踏まえ、スロベニアは、合意の履行を主張する上で、法的・政治的・倫理的な権利を有していると述べ、欧州委も必要な対応をとることに期待を表明した。

ツェラル首相は、裁定の履行を継続的に主張していくとの方針を強調する一方、スロベニアは、主権を行使することによりクロアチアに圧力を掛けているのではなく、あくまでも裁定履行がその意図であるとして、クロアチアも、裁判所により帰属が認められた領土において同様な対応をとるべきであると主張した。

また、エリヤヴェツ外相は、クロアチアが国際法及びEU法を遵守しない限り、同国がシェンゲンやOECDへの加盟を果たすことはないであろうと述べ、かかる方針は、同外相が閣僚に留まる限り変更される必要はないとの考えを示した。

●米国務省高官、米の中立的立場を強調【4日】

クロアチアを訪問中のブライアン・イー米国務省欧州・ユーラシア担当次官補代理は、地元メディアのインタビューに対し、米政府は、国境線確定問題において、どちらか一方を支持することはなく、両国が近い将来に解決策を見出すものと確信しており、解決はあくまでも両国の責任であると述べた。クロアチアによる最終裁定不履行につき、同次官補代理は、仲裁プロセスの正当性につき米国が発言する立場にはないとし、両国は、最終的な合意を達成するための政治的意思を見出していく必要があると述べた。



### ●ユンカー欧州委員長、欧州委による仲介を支持【8日】

ユンカー欧州委員長は、国境線画定問題は単なる二国間問題ではなく、EU全体及び西バルカンの欧州における将来に影響を与える問題であるとして、かかる懸念が、欧州委が、仲裁を提案している理由であると述べた。クロアチアが、最終裁定の履行を拒否することにより、EU法に違反しているとのスロベニア側の立場に関する意見を問われた同委員長は、「単純な質問に対する単純な回答はいつも存在する訳ではない」として明確な回答を避けた。

### ●パホル大統領の欧州委員長及び欧州理事会議長との会談【9日】

ブリュッセル訪問中のパホル大統領は、ユンカー欧州委員長及びトウスク欧州評議会議長との会談結果につき、「完全に満足はしていないが、失望もしていない」と評価した。ユンカー委員長との会談につき同大統領は、「非常に難しいものであったが、自分は、同委員長に対し、履行を促すための行動は速やかに開始される必要があるとの考えを伝えた」と述べた。

### ●スロベニア政府、欧州司法裁への提訴を準備【12日】

エリヤヴェツ外相は、2月下旬までに、政府は欧州委に対し、仲裁裁定の不履行に関し、提訴状の草案を送付するとの方針を明らかにした。同外相によれば、欧州委は、草案の受領から3ヶ月以内に、同裁判所による審理において欧州委が原告となるか、スロベニア政府のみが原告となるかにつき決定することとなる。

### ●国境を越えたクロアチア漁業関係者への罰金通知の開始【26日】

スロベニアは、昨年12月30日、クロアチアとの国境問題について仲裁裁定の履行開始を決定した。その後、海上の境界線を違法に超えたクロアチア漁業関係者らに対し、スロベニア警察は、26日、罰金通知14通を発出した。警察によれば、罰金を支払わない者は、スロベニアへの入国を拒否される。

## 経済

### 【コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業】

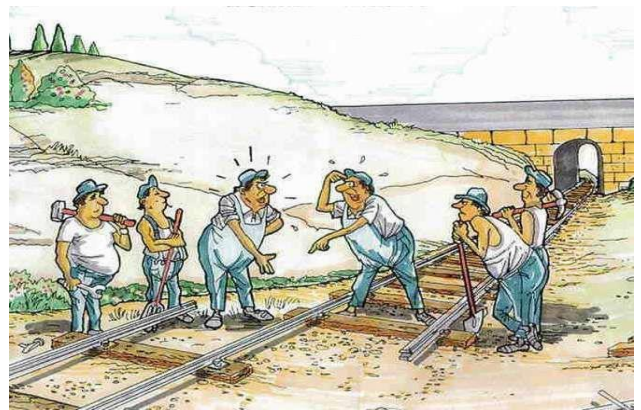
●インフラ副大臣、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業の予算につき、ハンガリーの資本参加なしでもEU基金の活用が可能となるようEUと協

### 議【23日】

レーベン・インフラ副大臣は、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業に関し、仮に潜在的な戦略パートナーであるハンガリーが、想定2億ユーロの拠出を、本件事業に対し行わない場合にも、EU基金からの資金調達が可能となるよう、欧州委との間で協議を行っている旨明らかにした。同副大臣は、「スロベニアの立場は、EUとの合意文書において、仮に戦略的パートナーが撤退した場合にも、EU基金の活用が出来るような文言を挿入することであり、手続は、4月頃に実行されるであろう」との見通しを示した。

### ●憲法裁判所、第2鉄道路線建設経費の調達及び国民投票実施に関する2法案は憲法違反と判断【31日】

憲法裁判所は、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設費用調達及び国民投票の実施にかかる2つの法律は憲法違反であるとの判断を下し、最高裁判所に対し、昨年夏に実施された国民投票の結果を有効か無効とするか判断するよう指示した。憲法裁判所は、国民投票に向けたキャンペーンにおいて、政府が双方の主張を提示するのではなく、一方の主張のみ支持したとする市民団体代表であるコヴァッチ氏の主張を認めた形となる。スロベニア政府は、判決は尊重するものの、プロジェクトの履行は進めていくとの立場を表明した。



(写真: Delo)

### ●電力会社社長、クルシュコ原発第2号機の必要性を主張【2日】

2日、クルシュコ原発を所有する「Gen energija」社のノウシャク社長は、STAとのインタビューにおいて、「今後の、電力需要の拡大に伴い、クルシュコ原発第2号機の建設を検討すべき時期に来ている」と述べた。また、同社長は、1981年にクロアチアと共同で同原発を建設したような協力形態は期待出来ず、

周辺地域において、近代的な電力インフラが欠如していることから、より広範な国際協力に基づき、プロジェクトを進めていくことを検討すべきであると述べた。

### ●スロベニア、イタリア北部におけるパイプライン建設に反対【5日】

スロベニア政府は、イタリア・ローマのラツィオ行政裁判所にて、イタリア北東部のトリエステ・グラド・ヴィレッツェ (Trieste-Grado-Villesse) ガスパイプライン建設にかかる環境認可に関し、イタリア当局との行政紛争に原告として加わったことを明らかにした。

本件プロジェクトは、スロベニアとの国境付近に位置するアクイリニア市 (Aquilinia) において長年計画されている液化天然ガスターミナルに接続するパイプラインである。スロベニア環境・空間計画省は、同計画に反対する理由として、同計画がトリエステ港都市計画に合致せず、さらに、環境認可もEUの戦略的環境影響アセスメント指令 (SEA) に反する点を指摘した。また、同省は、本件プロジェクトに関する会議では、常に反対を表明してきており、今後は、イタリアが同計画が真に戦略的なエネルギープロジェクトであるか否かという点を評価し、適切な決定を下すと確信している、と述べた。

### ●中国資本のVLM航空、2月よりマリボルからアントワープへの航空便を開設【8日】

マリボル空港管理会社を所有する中国資本のSHS アビエーション社の傘下にあるベルギーのVLM航空は、2月12日より、マルボル空港発ミュンヘン経由アントワープ行き定期便の運行を開始する旨を発表した。リッカード同社社長は、「新たなコネクションは、マリボル及びその周辺地域の企業のみならず、個人の旅行者にとっても利益となるものである」と述べた。

### ●スロベニア政府、コペル港のコンセッション区域拡大【11日】

スロベニア政府は、コペル港湾会社に対し、同社に与えている同港のコンセッション対象区域を約1万4000平米拡大する旨の政令を採択した。この対象区域拡大により、同港施設へのタンクローリーの新たな入口の建設が可能となる。一方、対象区域の拡大は、ハンガリーによるコペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業への参入に伴い、同国への権益譲渡が噂されている、同港に隣接する土地における施設建設とは直接の関係はないものと見られている。

### ●外国人労働者、過去最多となる【13日】

スロベニア統計局は最新の労働統計を発表し、昨年10月現在、合計75,963人の外国人労働者が登録されており、過去最高の水準であることを明らかにした。2013年より外国人労働者数は増えており、国内における人材確保が困難なため外国人を雇用するスロベニア企業が増加していることが示唆される。2016年の年間統計では、外国人労働者数61,422人のうち、48,891人が非EU諸国出身。出身国の主な内訳は、ボスニア・ヘルツェゴビナ (28,998)、セルビア (7,127)、クロアチア (5,870)、その他マケドニア、コソボ、ブルガリア、イタリア、ロシア、ウクライナ等からそれぞれ1000人以上。外国人労働者が働く主なセクターは、建設 (15,514人)、製造 (12,893人)、輸送・保管サービス (10,202人) 等。

### ●税収が前年比で6.3%増加【15日】

国税庁 (Finance Administration) が発表した暫定値によると、2017年の社会保障負担等を含む総税収額は前年比約9.2億ユーロ (6.3%) 増加し、約155億ユーロを記録した。増加分の主な内訳は、社会保障負担 (3億ユーロ、6.5%増)、法人税 (1.7億ユーロ、27.8%増)、個人所得税 (1.2億ユーロ、5.7%増)、付加価値税 (2.2億ユーロ、6.8%増)、諸物品サービス税 (2.7億ユーロ、5.2%)、関税 (3400万ユーロ、2.2%増) 等。なお、国税庁によると、強制徴収による回収が税収の約5%に留まっており、納税に対する見方が改善されていると示唆される。なお、暫定値によると、2017年の政府予算の歳入総額は前年比6.1%増の88億ユーロ、歳出は前年比1.7%増の92億ユーロ、財政赤字は前年より半減して約4億ユーロとなった。

### ●非EU諸国出身の外国人の雇用に際する手続簡素化に向けた動き【17日】

商工会議所の主催で、経済関係省庁及び商工会議所幹部によるパネルディスカッションが開催され、非EU諸国出身の外国人の雇用に際する手続の簡素化を求める企業側の要望につき議論を行った。カンタルティ経済開発・技術省副大臣は、本件問題は、法制度の問題ではなく、寧ろ、その履行の問題であるとの考えを示し、問題に対処するために、関係省庁間の作業部会が既に立ち上げられ、手続の迅速化・簡素化に向けた解決策が検討されていると説明した。



## スロベニアに迫る！⑥ 2017年の観光客統計

政府統計局によれば、2017年にスロベニアを訪問した観光客数は、対前年比で13%増の約470万人となり、過去最高となりました。また、宿泊日数についても対前年比で11%増加し、1200万泊となりました。統計局によれば、470万人のうち、340万人超が外国人であり、前年比で17%増でした。また、外国人観光客の総宿泊日数は810万泊であり、対前年比で15%増となりました。

外国人観光客の中で、最も訪問者数が多かったのはイタリア人で約54万人、続いて、ドイツ人(約37万1000人)、オーストリア人(約34万2000人)、クロアチア人(約16万9000人)、英国人(約11万8000人)、セルビア人(約10万9000人)となっています。



(写真:スロベニア政府観光局)

なお、アジア諸国からは、韓国人が一番多く約14万8000人、続いて、中国人(約6万3000人)、日本人(約3万1000人)の順番でした(注:2016年の日本人観光客数は29,216人)。

2017年7月、旅行大手のHISは、同社の予約実績にもとづく2017年の夏休みの旅行動向を発表しましたが、前年比伸び率ランクで、スロベニアが第一位の361%を記録し、他の欧州諸国と比べ、治安状況の良いスロベニアを訪問する日本人観光客数が回復していることを示しています。

## ●欧州委、スロベニア政府による不良債権の処理に向けた努力を評価【18日】

欧州委は、EU各国における不良債権の処理状況に関する報告書を発表し、スロベニアにおける不良債権の処理が迅速に進んでいるとして評価した。ドムブロフスキス欧州委員会副委員長は、「スロベニアはEU加盟国の中で、不良債権の比率を最も早いペースで削減しており、スロベニアの金融機関は、将来の潜在的な財政的ロスをカバー出来る十分な準備金を所有していると述べた。なお、2017年第2四半期時点でのスロベニアにおける不良債権の比率は、対前年比で5%減少し、11.4%となった。

## ●米グーグル社の代表、スロベニアを訪問【19日】

米グーグル社の代表がスロベニアを訪問し、カンタルティ経済開発・技術省副大臣との間で今後の協力につき意見交換を行った。同社は、スロベニアの中小企業の輸出促進をサポートしたいとして、ポーランドに開設された、中小企業向けサポートセンターを紹介した。同省は、「グーグル社は、スロベニアを成功し、ハイテク指向で、且つ、経済的に安定した国と認識しており、高い教育水準及び良好なビジネス環境は、多くのビジネス機会を提供し得ると考えている」との声明を発売した。

## ●アドリア航空の旅客数、対前年比で10%上昇【24日】

アドリア航空は、2017年に120万人の旅客を輸送し、対前年比で10%増となった旨発表した。同社によれば、これは、ウクライナと他の欧州都市間を結ぶものも含めた新たなルート開設の結果であるとの考えを示した。また、同社は、この好調な業績は、リュブリャナ空港の利用者数上昇にも貢献したと述べた。

## ●スロベニア政府、最低賃金を引き上げ【26日】

コパチュ＝ムラク労働・家族・社会問題・機会均等大臣は、最低賃金を4.7%引き上げ、月額842.79ユーロに改定することを決定し、官報公示を行った。最低賃金の改定については、事業者側は当初、昨年のインフレ率に合わせて1.7%の上昇率を求めていたのをその後3.5%に修正した一方で、労働組合は6.2%の上昇を求め続け、協議は平行線をたどっていたため、社会経済協議会(Economic Social Council)にて同大臣がその中間値である4.7%を提案していた。発効日は、2018年1月1日。

## 発見！スロベニア

### スロベニアのクラフト・ビール

スロベニア・マンスリーでは、これまでスロベニアのワイナリーを紹介してきましたが、スロベニアは多種多様なビールの生産地としても近年知られるようになりました。スロベニアには現在大小約30ものブルワリーが点在し、ビール好きの旅行者にとっても穴場の存在となっています。スロベニアで最も生産量が多いのは、ハイネケンの資本傘下にあるユニオン(Union)とラシュコ(Lasko)ですが、ここでは、より小規模なブルワリーが生産するいわゆる「クラフトビール」を幾つか紹介したいと思います。



(ジャレツ市の「ビールの噴水」、写真:ジャレツ市)

### 「ヒューマン・フィッシュ(Human Fish)」

ヒューマン・フィッシュとは、下記の「トウラール洞窟研究所」のコラムでも紹介しているスロベニアの天然記念物であるホライモリ(Proteus)の別称です。ヒューマン・フィッシュ・ブルワリーは、リュブリャナ南西部のヴルフニカ(Vrhnika)にあり、ペールエール(大麦麦芽を使用)、インディア・ペールエール(高アルコール度数のペールエール)、スタウト(ロースト大麦を使用)が主要なラインです。お勧めは、ペールエール・スタイルの「SIPA(モンゴウイカの意)」で、ローストされたモルトの香りと、フルーティーな味わいが特徴です。

### 「ベヴォグ(Bevog)」

ベヴォグのブルワリーは、スロベニア国境から数キロのオーストリアのBad Radkersburgという街にありますが、スロベニア資本であることから、スロベニアのビールとして認識されています。ベヴォグでは、エール酵母(上面発酵酵母)を使った、英国スタイルのエールビールを生産していますが、常に新しいアイデアを取り入れ、ユニークな味のビールを生産してい

ます。お勧めは、「Pale ale Tak」で、芳醇な香りと適度な苦みがありますが、フィニッシュはまろやかです。



(スロベニア産ホップを使用したビール)

### テクトニク(Tektonik)

最後は、リュブリャナ市内にあるテクトニクです。テクトニクでも、主に、ペールエール、インディア・ペールエール(IPA)、スタウト等のラインに加え、白ビールも製造しています。Tektonik はリュブリャナ市内で開業した最初のクラフト・ブルワリーで、最新の技術、世界各国から輸入した最高品質の素材を用いて、多種多様なビールを製造しています。お勧めは、IPAの「Dizzy」で、心地よい苦みと、様々なフルーツの香りが調和し、深い味わいに仕上がっています。



(ベボグの「Pale ale Tak」)

スロベニアが美味しいビールの生産地であるのは、良質なホップを生産しているからで、近年では日本のビールメーカーもスロベニア産ホップを使った製品を販売しています。また、ホップの一大生産地として知られる中部のジャレツ(Zalec)市には、欧州初となる「ビールの噴水」があり、6ユーロでグラスを購入すると、好きなだけビールを飲むことができます。



## 軍事・治安

### ●NATO事務総長、スロベニアの国防予算増額を要請【9日】

ストルテンベルグNATO事務総長は、NATO本部におけるパホル大統領との会談において、スロベニアの国防予算の増額を要請した。同事務総長は、「スロベニアが国防予算の削減を停止し、一定の増額を行ったことを評価するが、スロベニアの経済状況が改善したことに鑑み、更なる増額を要請する」との立場を表明した。また、同事務総長は、R&D強化及び装備の近代化を通じた軍の近代化が必要とされており、スロベニアに対し、国防予算の2割をR&Dに充当することを要請した。これに対し、パホル大統領は、スロベニアが国防予算の削減を停止したことは重要だが、数年以内に求められているGDPの2%を達成することは困難であるとの見方を示した。

### ●カティッチ国防相、ボスニア・ヘルツェゴビナのNATO・EU加盟を支持【16日】

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)を訪問したカティッチ国防大臣は、ペンデシュBH国防相と会談すると共に、EU部隊(EUFOR)に派遣されているスロベニア軍部隊が駐屯するブツミル基地を視察した。また、両大臣は、西バルカン地域の治安情勢、国防分野における二国間軍事協力実施の可能性についても意見交換を行った。更に、両大臣は、同地域の安定と発展のためには、西バルカン諸国のEU及びNATO加盟への展望を維持することが重要であるという点で一致した。

### ●台湾系振り込め詐欺グループの検挙【18日】

スロベニア警察は、中国警察からの情報に基づき、台湾系振り込め詐欺グループの被疑者9人を逮捕した。また、振り込め詐欺の電話を掛けさせられていた人身取引の被害者である台湾人等32人を特定した。

在スロベニア中国大使館は、両国警察による協力の成果と評価する一方で、振り込め詐欺の掛け子をしていた台湾人らは、人身取引の被害者ではなく犯罪者であるとして引渡を要求し、また、台湾人通訳の捜査への従事について「一つの中国」原則違反であると主張した。

### ●偽造自爆ベルト等を所持していたバス乗客の検挙【25日】

スロベニア警察は、クロアチアとのドラゴニア国境検問所で、クロアチアからのバスの車内で、偽造自爆

ベルトとナイフを所持していたクロアチア人の22歳の男を発見し、同男を逮捕した。同男は、警察に対し、クロアチアのポレチを出発し、リュブリャナに向かっていたと供述した。同偽造自爆ベルトは、ベルトに粘着テープで巻かれた空き缶に配線が取り付けられていた。この事件により、ドラゴニア国境は、3時間閉鎖された。

### ●モンテネグロとの間の軍事協力強化【31日】

カティッチ国防大臣は、スロベニアを訪問したボシュコビッチ・モンテネグロ国防大臣と会談し、軍事・技術協力及びソフトウェアの移管に関する合意に署名した。カティッチ大臣は、モンテネグロによるスロベニアに所在するNATO山岳戦闘訓練センターへの加盟を歓迎し、モンテネグロのNATO加盟は、西バルカンの安定に向けた重要なステップであるとして賞賛した。ボシュコビッチ国防大臣は、モンテネグロ軍部隊が、ラトビアのNATOミッションに今後展開予定のスロベニア軍部隊の一部として参加することを提案した。

## 社会・文化・スポーツ

### ●ブレッドの観光客数、100万人を突破【1日】

スロベニアの観光スポットのひとつである湖畔リゾートのブレッドは、2017年に年間観光客宿泊数100万という新たな記録を更新し、1日(月曜日)に特別な節目を迎えた。ファイナル(Janez Fajfar)・ブレッド市長は、同記録は非常に特別であり、最初に予想されていたよりもはるかに早く達成されたと述べた。地元観光局によると、イギリス観光客が最大のグループであり、ドイツ、イタリア、オーストリアの観光客がそれに続いている。また、同局はブレッドが旅行ガイドLonely Planetやインスタグラムのトップ10の目的地に選ばれたこともあり、2018年は更に観光客が増加すると考えている。

### ●UEFA Futsal Euro 2018【30日】

2年毎に開催される第11回UEFAフットサル・ユーロ2018大会が、30日に開幕した。計12チームが出場し、2月10日までリュブリャナ市内で開催される予定である。スロベニアチームは30日の初戦でセルビアと対決し、結果は2:2の引き分けであったが、約1万人以上の観客が応援に駆け初戦のチケットはほぼ完売となった。スロベニアチームはグループAに所属しセルビアとイタリアと対戦する。

## 発見！スロベニア

### 昭和天皇に寄贈されたホライモリ

スロベニア北西部クラン市に位置するトゥラル洞窟研究所(Tular Cave Laboratory)は、スロベニアの天然記念物であり、IUCNの絶滅危惧種リストにも掲載されているホライモリ(Proteus)の保護に関する研究を行っている家族経営の小規模な研究所です。



(写真: Tular Cave Laboratory)

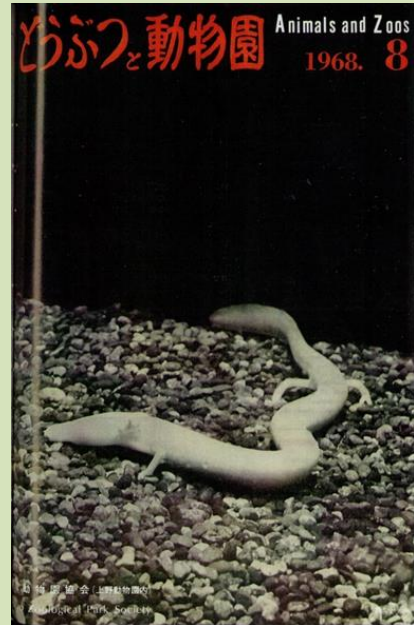
同研究所と日本との関係は、1968年のチトー・ユーゴスラビア連邦大統領による訪日の際に、同大統領が、当時の昭和天皇への贈呈品としてホライモリを考え、同研究所の創設者であるマルコ・アリヤンチッチ(Mr. Marko Alijancic)氏にホライモリ確保を依頼したことに遡ります。アリヤンチッチ氏は、ホライモリの日本への輸送のために、大統領一行と一緒に訪日することを希望しましたが、それが叶わなかったため、同行したチトー大統領の専属医ラレビッチ医師(Prof. Dr. Predrag Lalevic)に、ホライモリ飼育にあたる注意事項をメモ書きで渡しました。



(写真: Tular Cave Laboratory)

ホライモリは昭和天皇に寄贈された後、上野水族館に下賜され、一時は一般公開されていた模様ですが、

その後の40年間に亘り、寄贈されたホライモリがどうなったか情報が伝わって来ませんでした。



(昭和天皇に寄贈されたホライモリ, 写真: 上野動物園)

2008年に行われた当時のヤンシャ首相訪日に際し、再度、ホライモリを天皇陛下に寄贈する話が浮上したため、在京スロベニア大使館を通じて、寄贈されたホライモリにつき調査したところ、残念ながら、寄贈から約1年半で息絶えていたことが判明しました。

同研究所の活動としては、地下水脈の洪水等により、地上に流出したホライモリを救出するホットラインを設置し、救出されたホライモリの治療・生態系への再放流を行う保護活動の他、ホライモリに関する数々の研究もおこなっています。その一例としては、河川の水を採取し、環境DNA調査を行うことにより、水中に溶け込んだホライモリの脱皮後の皮膚のDNAを検出し、その川の水源地となっている地下水系にホライモリが生息しているかの調査です。その結果、スロベニアのカルスト地域、クロアチアのダルマチア地方、ボスニア・ヘルツェゴビナのヘルツェゴビナ地方に至る、ディナル・アルプス山脈に沿った地域に加え、モンテネグロにおいても新たに生息が確認されました。

また、調査により、地下水の汚染がホライモリの生息数減少に影響を与えていることが判明し、同研究所は地下水脈の汚染防止活動にも積極的に取り組んでいます。トゥラル研究所の活動内容等については、以下のウェブサイトをご参照下さい。

<http://www.tular.si/>



## 在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: [info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

Web: [http://www.si.emb-japan.go.jp/website\\_jp/index\\_j.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html)

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

### ★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

### ★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。1月号では鹿児島県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

[http://www.si.emb-japan.go.jp/Living\\_in\\_Japan.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html)

### 【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

### 【広報文化班からのお知らせ】

●「ウィンター・ガーデン：日本現代美術における マイクロポップ的想像力の展開」展

本展覧会は、日本のポップカルチャーへの世界的な関心の高まりを受け、美術評論家の松井みどり氏に企画を依頼し制作されました。絵画、ドローイング、映像約40点により構成され、60年代以降に生まれた若手アーティストによる「マイクロポップ(松井みどり氏の造語)」的表現が、現代の世界で生きることとどのように関係しているのかを探っていくものとなっています。

○場所：F0.VI Gallery (住所：Strnišče 6, 2325 Kidričevo)

○会期：2018年2月6日(火)～23日(金)

※初日6日は午後18：00時からオープニングイベントを開催します。

○入場料：無料

主催：国際交流基金、F0.VI Gallery、在スロベニア日本国大使館

●TBS テレビ 60周年特別企画連続ドラマ「天皇の料理番」放映中

大正・昭和時代の宮内省厨司長を務めた秋山徳蔵氏の人生を描いた、直木賞作家・杉森久英原作の『天皇の料理番』に基づくドラマです。

○放映チャンネル：TV SLO 1

○放映日時：土曜 16：00～17：00 (全12話)

詳細は、テレビ番組表：<http://4d.rtvsllo.si/program>（スロベニア語）をご覧ください。

●2018年度大使館推薦国費留学生（日本語・日本文化研修留学生）募集開始のお知らせ

日本政府文部科学省は、所定の日本の大学において1年間、日本語能力及び日本事情、日本文化の理解の向上のための教育を受けることを目的として国費留学生を募集しています。スロベニア人のご友人・お知り合いの方でご関心のある方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。募集要項等の詳細は当館ホームページにて。<http://www.si.emb-japan.go.jp/index.html>（スロベニア語のみ）  
○締切り：2018年2月28日（水）

●平成30年度JETプログラム参加者募集開始のお知らせ

JETプログラムは主に海外の青年を招致し、地方自治体、教育委員会及び全国の小・中学校や高等学校で、国際交流の業務と外国語教育に携わることにより、地域レベルでの草の根の国際化を推進することを目的としています。スロベニア人のご友人・お知り合いの方でご関心のある方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。募集要項等の詳細は当館ホームページにて。<http://www.si.emb-japan.go.jp/index.html>（スロベニア語のみ）  
○締切り：2018年2月28日（水）